

第2章 摂津市の高齢者等の現状と将来見込み

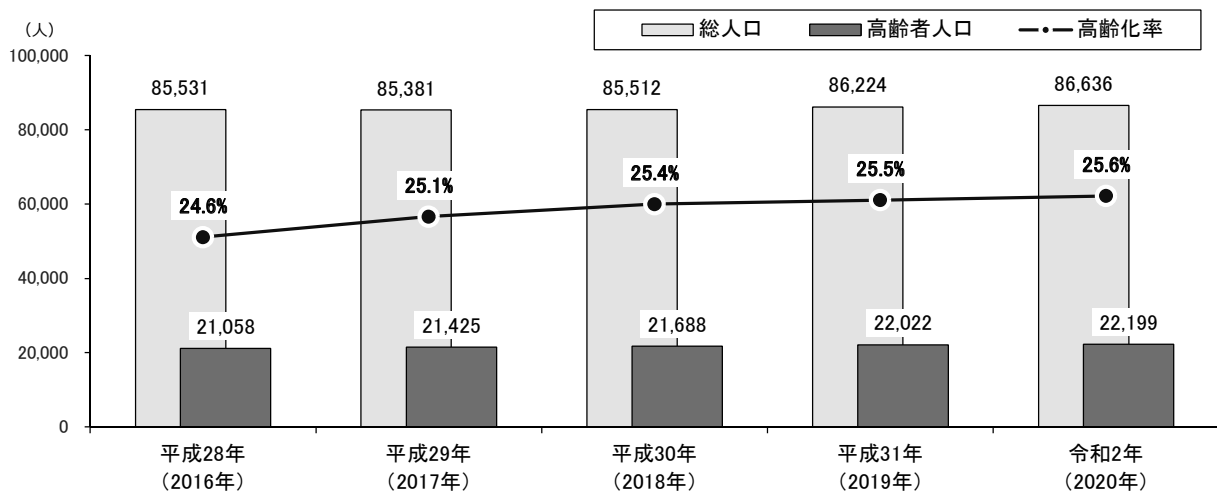
I 高齢者人口等の状況

(1) 人口の推移

本市の総人口の推移を住民基本台帳でみると、平成29(2017)年以降はゆるやかな増加傾向が続いており、令和2(2020)年では86,636人となっています。

一方、高齢者人口(65歳以上人口)は微増が続いているものの、高齢化率でみると、平成30(2018)年以降はほぼ横ばいとなっており、令和2(2020)年の高齢者人口は22,199人、高齢化率は25.6%となっています。

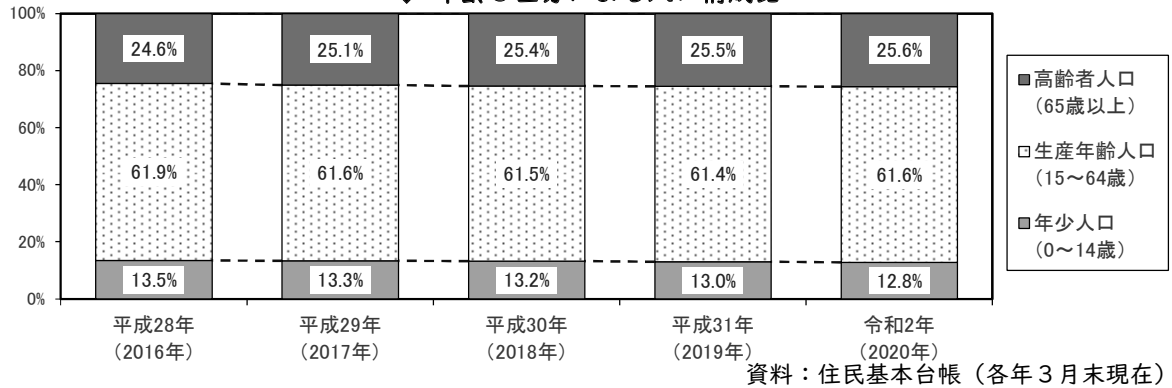
◆ 総人口・高齢者人口の推移



	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	平成31年 (2019年)	令和2年 (2020年)
総人口	85,531人	85,381人	85,512人	86,224人	86,636人
0～14歳人口	11,528人	11,364人	11,276人	11,232人	11,109人
比率	13.5%	13.3%	13.2%	13.0%	12.8%
15～64歳人口	52,945人	52,592人	52,548人	52,970人	53,328人
比率	61.9%	61.6%	61.5%	61.4%	61.6%
65～74歳人口	12,385人	12,068人	11,697人	11,342人	11,052人
前期高齢者比率	14.5%	14.1%	13.7%	13.2%	12.8%
75歳以上人口	8,673人	9,357人	9,991人	10,680人	11,147人
後期高齢者比率	10.1%	11.0%	11.7%	12.4%	12.9%
65歳以上人口	21,058人	21,425人	21,688人	22,022人	22,199人
高齢化率	24.6%	25.1%	25.4%	25.5%	25.6%

資料：住民基本台帳（各年3月末現在）

◆ 年齢3区分による人口構成比

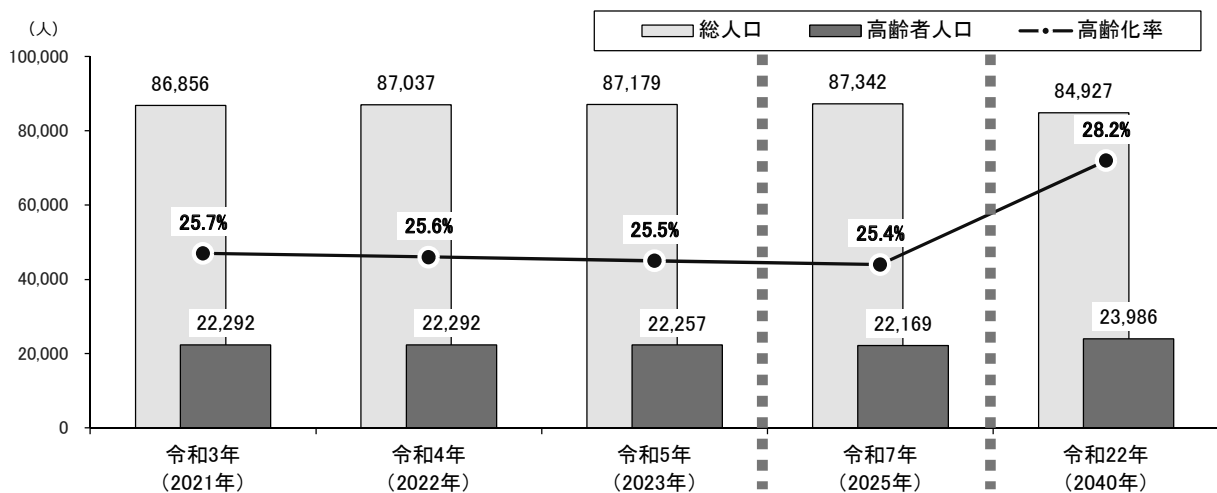


(2) 人口の将来推計

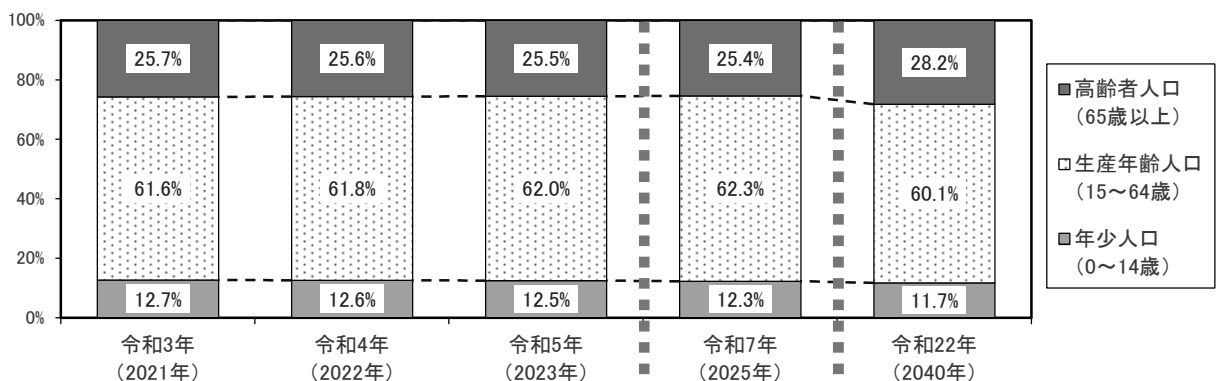
第8期計画期間中の人口の推計をみると、総人口は微増、高齢者人口は微減の傾向が続き、計画最終年の令和5（2023）年での総人口は87,179人、高齢者人口は22,257人（高齢化率25.5%）と推計されています。また、団塊の世代すべてが75歳以上となる令和7（2025）年時点においても高齢化率はほぼ横ばいとなる見込みです。

一方、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22（2040）年においては、総人口は減少、高齢者人口は増加に転じ、高齢化率は28.2%に増加すると推計されています。

◆ 総人口・高齢者人口の推計



◆ 年齢3区分による人口構成比の推計



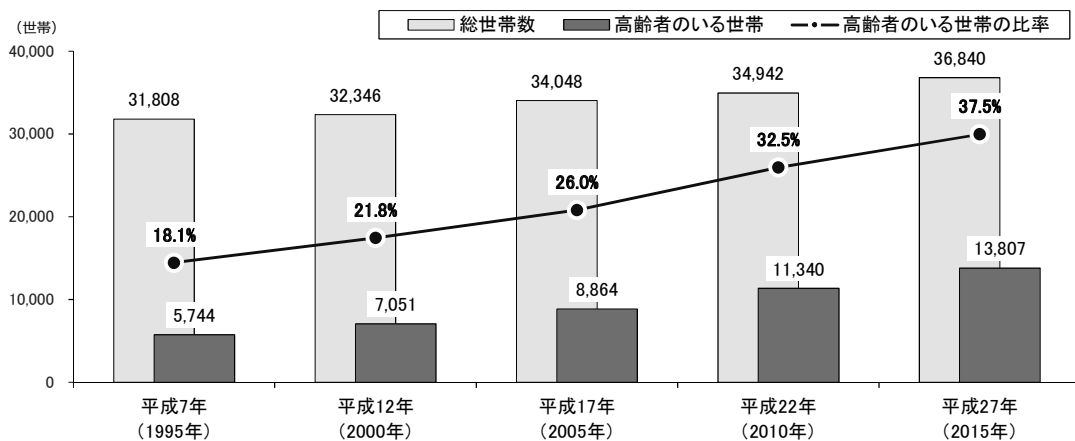
平成28年～令和2年（各年3月末）の住民基本台帳人口に基づくコーホート変化率法*による推計

(3) 世帯数の状況

本市の世帯数を国勢調査で見ると、一貫して増加傾向にあり、平成27(2015)年には36,840世帯となっています。また、高齢者のいる世帯数及び全世帯数に占める割合も同様に増加しており、平成27(2015)年では13,807世帯(37.5%)となっています。

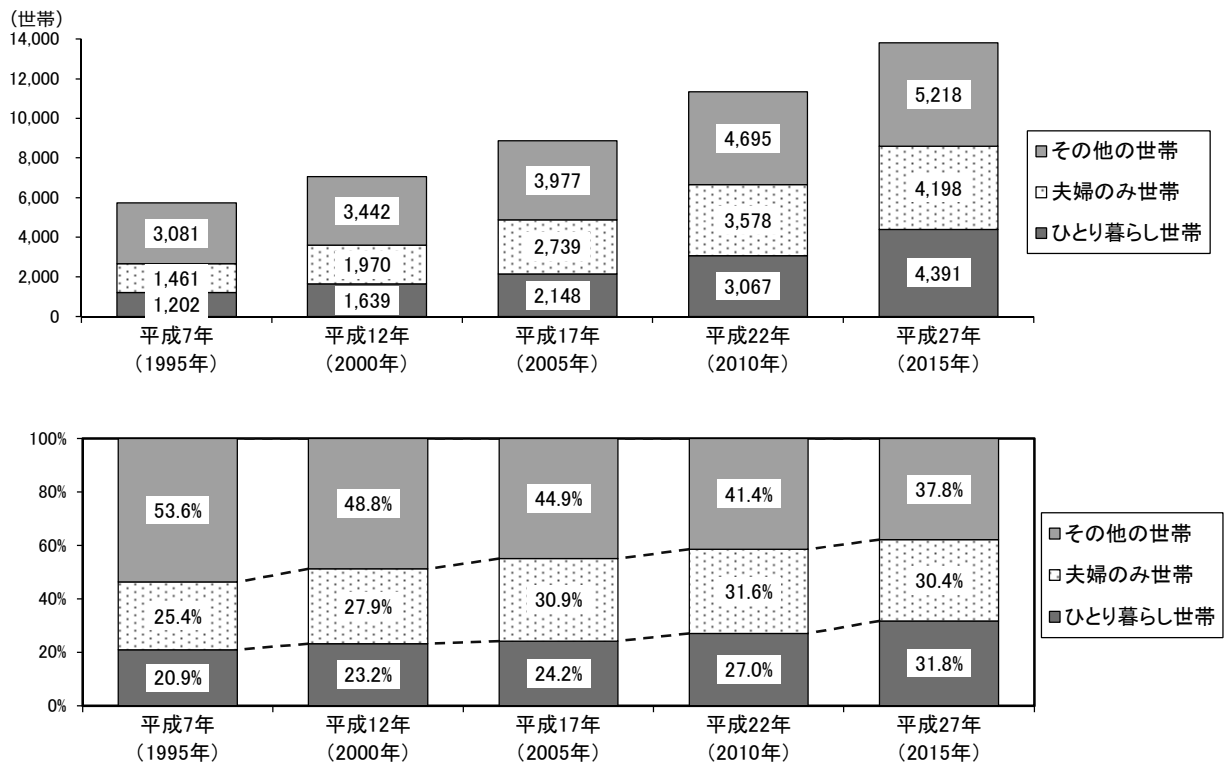
高齢者のいる世帯の形態は、平成27(2015)年ではひとり暮らし世帯が4,391世帯(31.8%)、夫婦のみ世帯が4,198世帯(30.4%)と、合わせて6割以上を占めており、年々この割合が高くなっています。

◆世帯数・高齢者のいる世帯数の推移



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

◆高齢者のいる世帯の推移・構成比



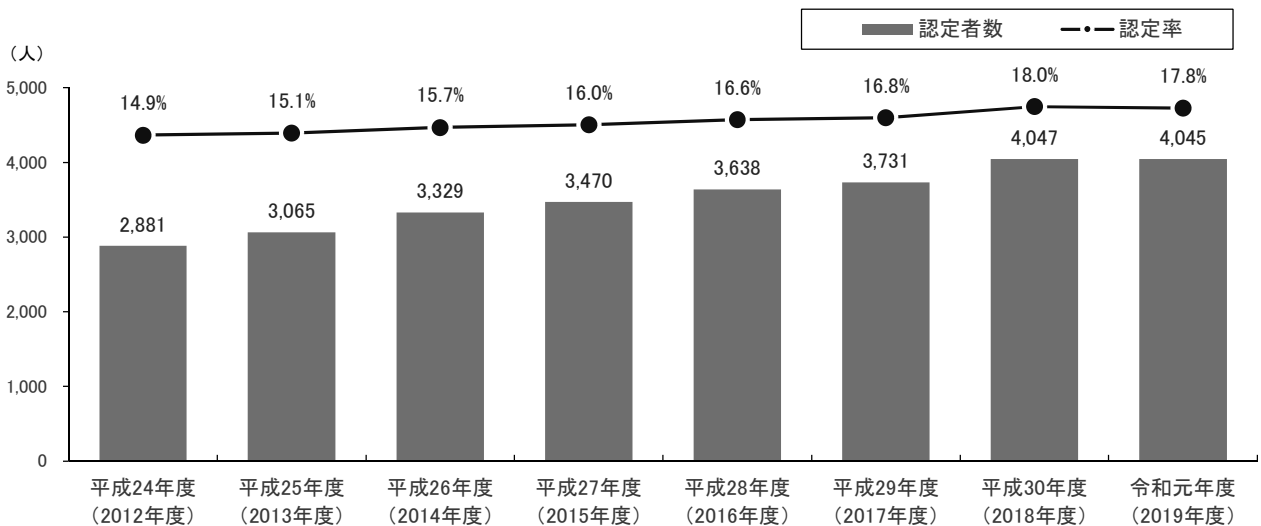
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

2 要支援・要介護者数の状況

(1) 要支援・要介護認定者数等の推移

本市における介護保険の要支援・要介護認定者数（65歳以上）は平成30年度（2018年度）までは増加傾向で推移しており、令和元年度（2019年度）末現在で4,045人となっています。また、第1号被保険者に対する認定者数の比率（認定率）についても平成30年度（2018年度）までは年々高くなっており、令和元年度（2019年度）末現在で17.8%となっています。

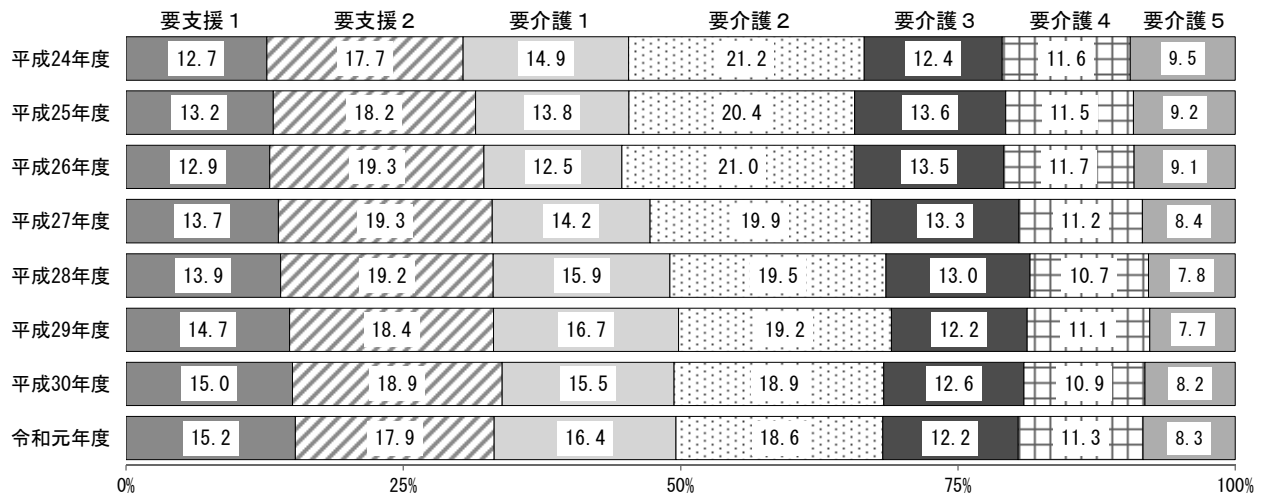
◆ 要支援・要介護認定者数及び認定率の推移



資料：介護保険事業状況報告（各年度末現在）

要支援・要介護度の構成比をみると、平成24年度(2012年度)に比べて、令和元年度(2019年度)では要支援1・2及び要介護1の割合は増加、要介護2以上は減少しています。

◆ 要支援・要介護度の内訳



資料：介護保険事業状況報告（各年度末現在）

3 実態調査からみた高齢者の現状や課題

(1) 調査の目的

本調査は、第8期摂津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定を行うにあたり、高齢者等の生活実態をはじめ、介護保険サービスや高齢者保健福祉サービスの利用状況、これらに対する今後のニーズなどを把握するとともに、計画に反映させる基礎資料として活用することを目的としています。

(2) 調査の実施要領

	調査区分	
	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
(1) 調査対象	令和元年11月1日現在、 50歳以上を無作為抽出 (要介護認定を除く)	令和元年11月1日現在、 要支援・要介護認定を受けている方 から無作為抽出
(2) 調査期間	令和2年1月10日(金)～1月31日(金)	
(3) 調査方法	郵送配布・郵送回収	
(4) 配布数	3,000件 (65歳以上2,200人、50～64歳800人を対象)	1,200件
(5) 有効回収数 [有効回収率]	1,907件 [63.6%]	748件 [62.3%]

(3) 報告書の見方

- 図表中の「n(number of case)」は、有効標本数(集計対象者総数)を表しています。
- 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、各回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・MA%(Multiple Answer):回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA%(Limited Answer):回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合

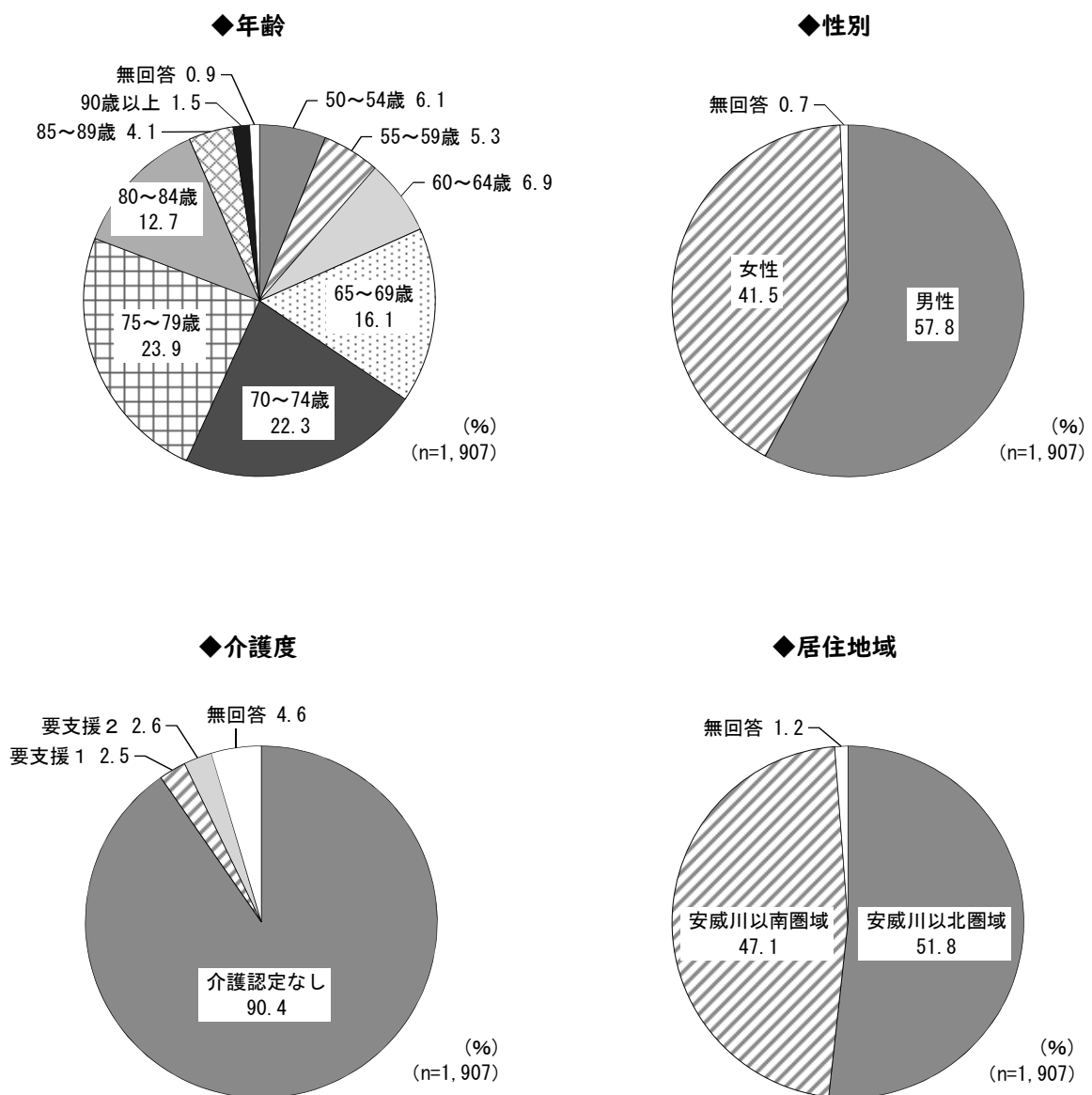
(4) 調査結果の概要

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【回答者の属性】

回答者の年齢としては、「75～79歳」と「70～74歳」を合わせると、70歳代の割合が4割台(46.2%)を占めており、性別では、男性が6割弱、女性が4割強となっています。

また、介護度をみると、「介護認定なし」が約9割となっています。居住地域では安威川以北圏域が5割強、以南圏域が5割弱と、ほぼ同数となっています。



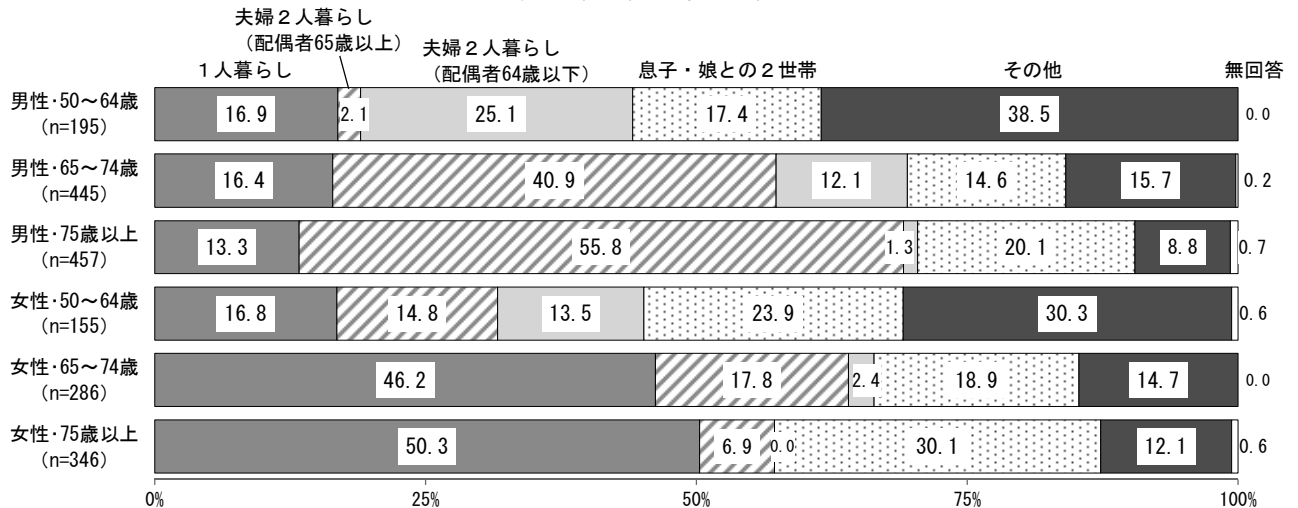
【家族や生活状況について】

家族構成については、「1人暮らし」が、女性の75歳以上で50.3%、65～74歳で46.2%と高くなっています。

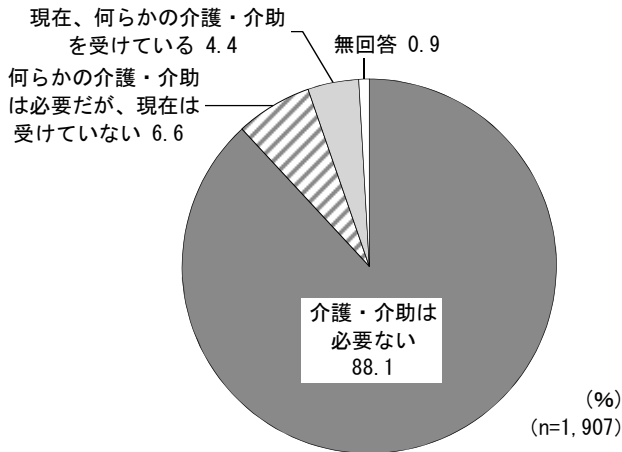
また、何らかの介護・介助が必要という割合は、1割台(11.0%)となっており、現在の暮らしについては、経済的に苦しいという割合が4割弱(38.0%)みられます。

住居形態については、持ち家率が高くなっていますが、安威川以北圏域では、集合住宅の割合も高くなっています。

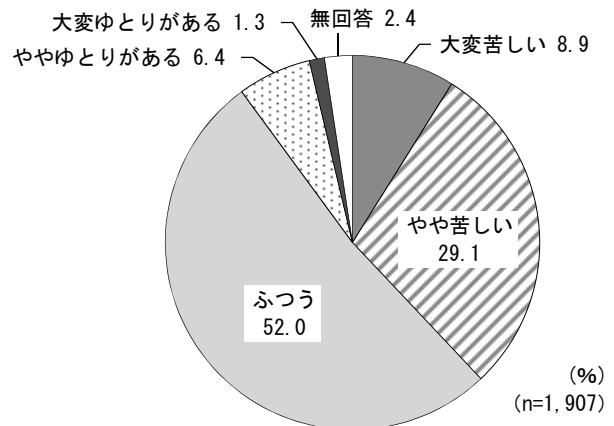
◆家族構成(性・年齢別)



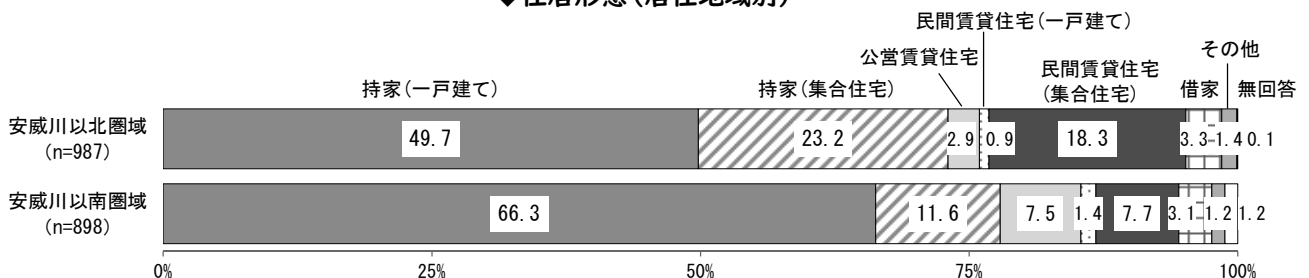
◆介護・介助の必要性



◆暮らしの経済的状況



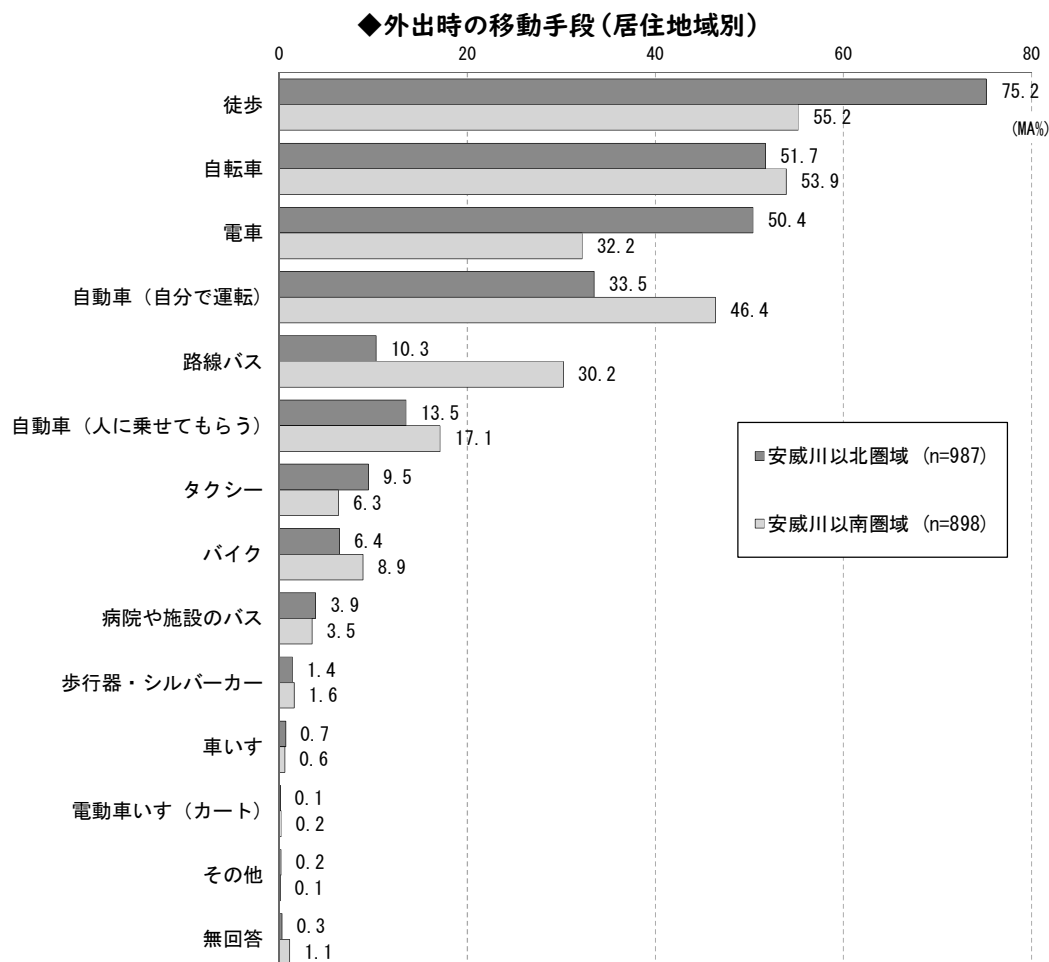
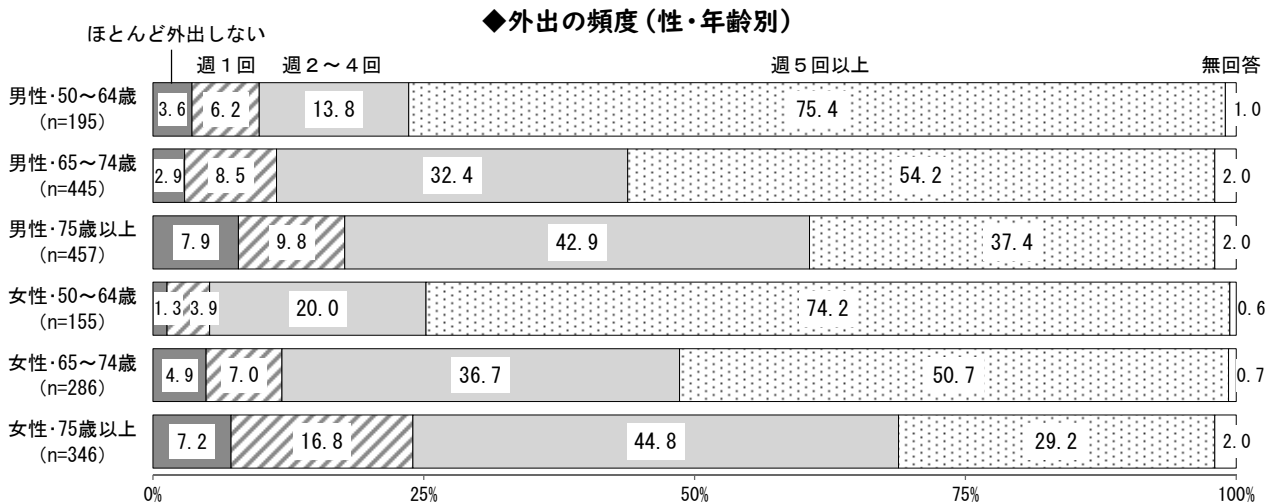
◆住居形態(居住地域別)



【からだを動かすことについて】

外出の頻度を性・年齢別にみると、週1回以下の割合は、75歳以上の女性で24.0%、男性で17.7%と高くなっています。

また、外出する際の移動手段を居住地域別にみると、2圏域ともに「徒歩」が最も多いものの、安威川以南圏域で55.2%に対し、以北圏域では75.2%と高くなっています。また、安威川以北圏域では「電車」が50.4%、以南圏域では「自動車(自分で運転)」が46.4%、「路線バス」が30.2%と、それぞれ高い割合となっています。

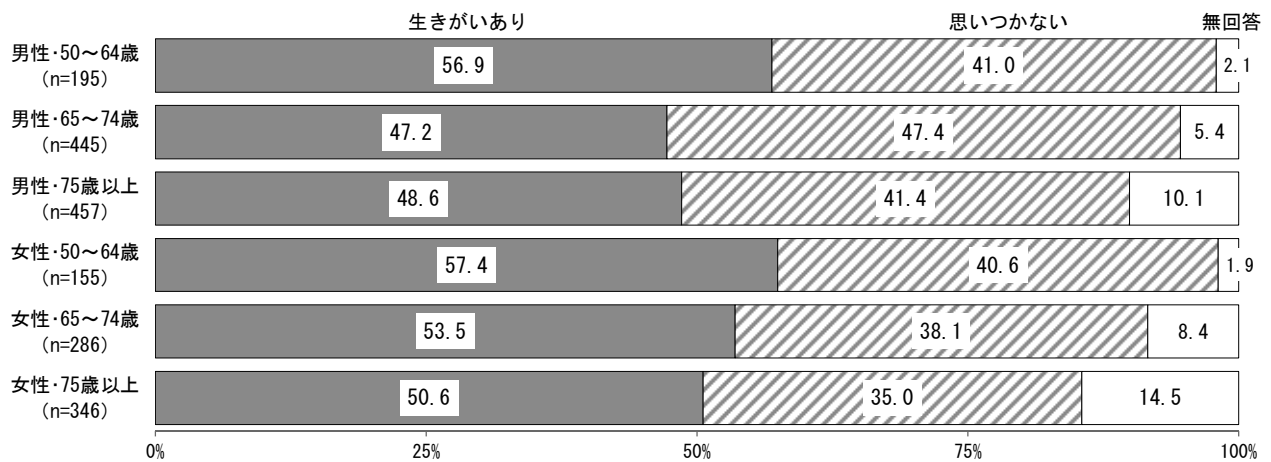


【毎日の生活について】

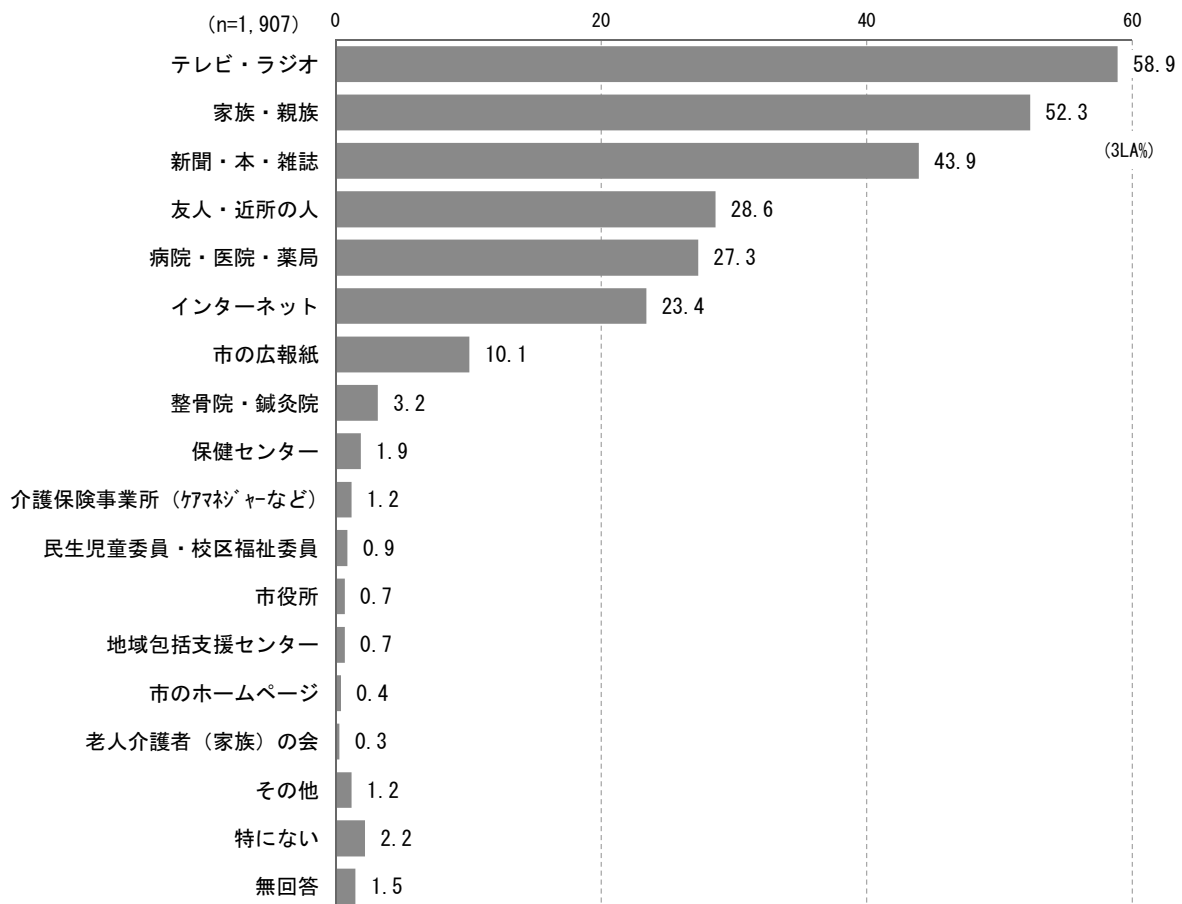
生きがいがあるという割合は、男女ともに50～64歳で高くなっています。一方、男性の65歳以上では半数を下回っています。

健康や日常生活の情報の主な入手先としては、「テレビ・ラジオ」が6割弱と最も多く、次いで「家族・親族」、「新聞・本・雑誌」となっています。

◆生きがいの有無(性・年齢別)



◆日常生活の情報の入手先

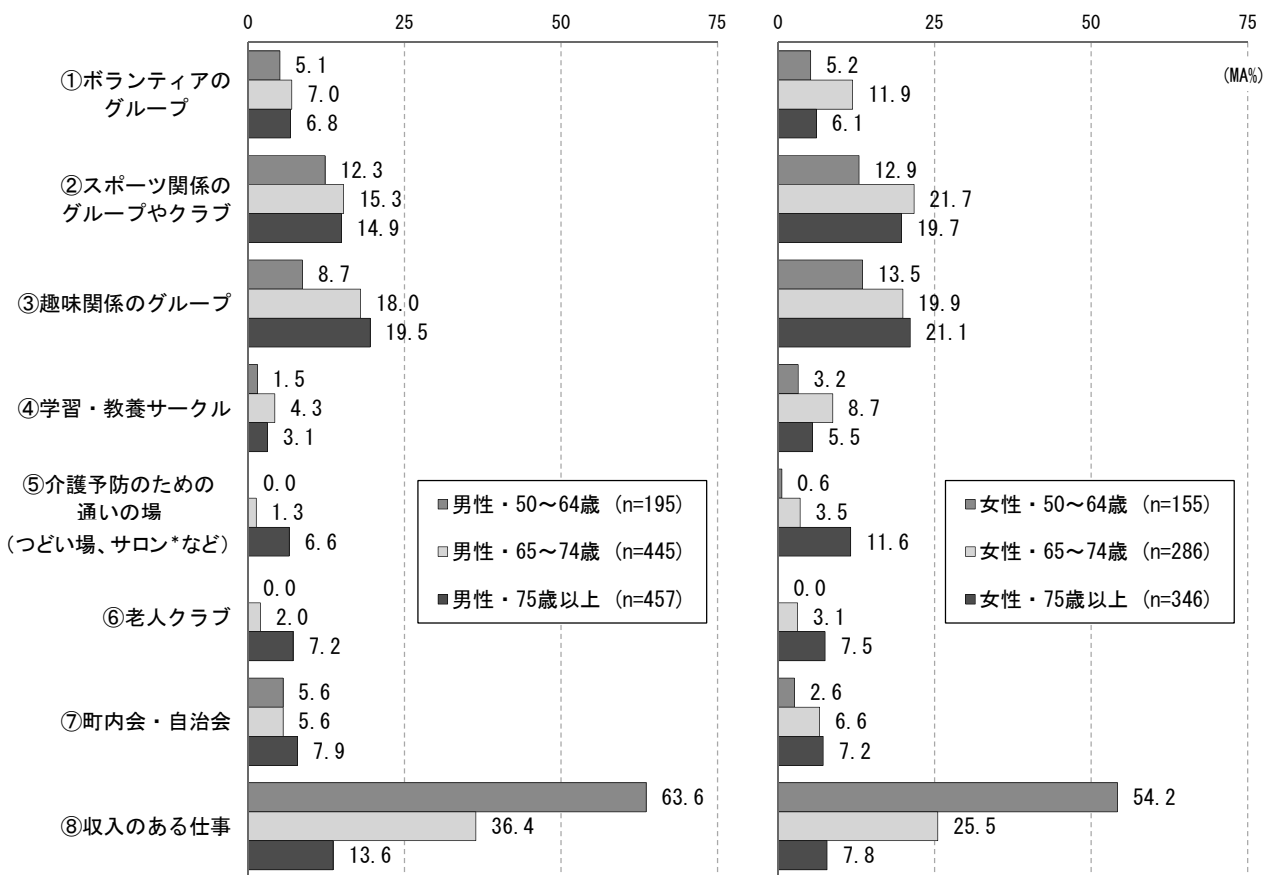


【地域での活動について】

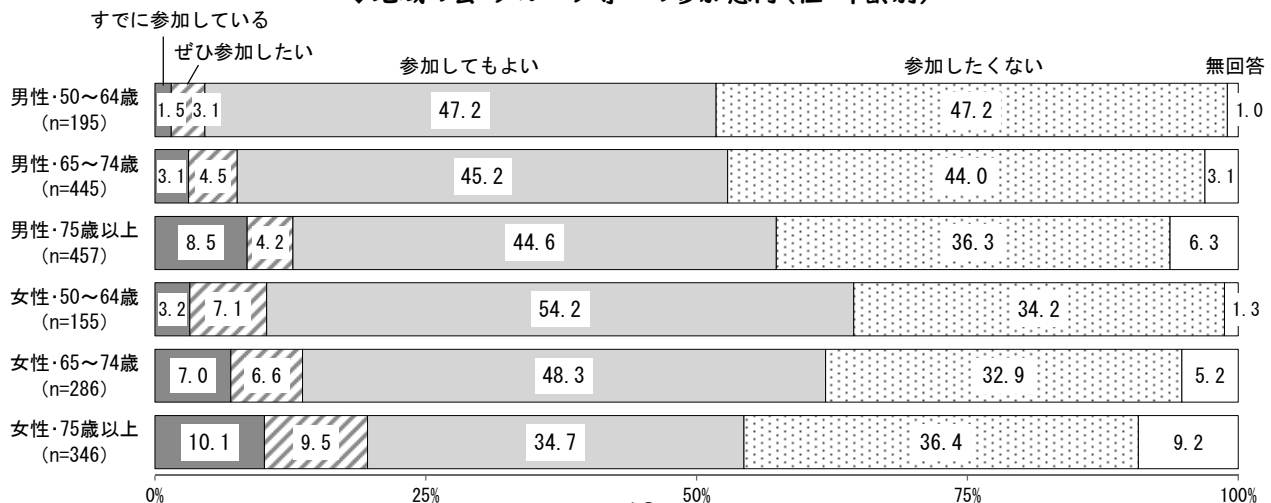
地域の会・グループ等への参加状況については、月1回以上参加している割合が、『②スポーツ関係のグループやクラブ』及び『③趣味関係のグループ』において、75歳以上の男女及び65～74歳の女性でそれぞれ2割前後みられます。

地域の会・グループ等への参加意向については、参加意向がある割合は、女性の50～74歳で6割台と高くなっています。また、「すでに参加している」、「ぜひ参加したい」は、ともに75歳以上の女性で最も高くなっています。

◆地域の会・グループ等への参加状況(性・年齢別) ※月に1回以上参加している割合



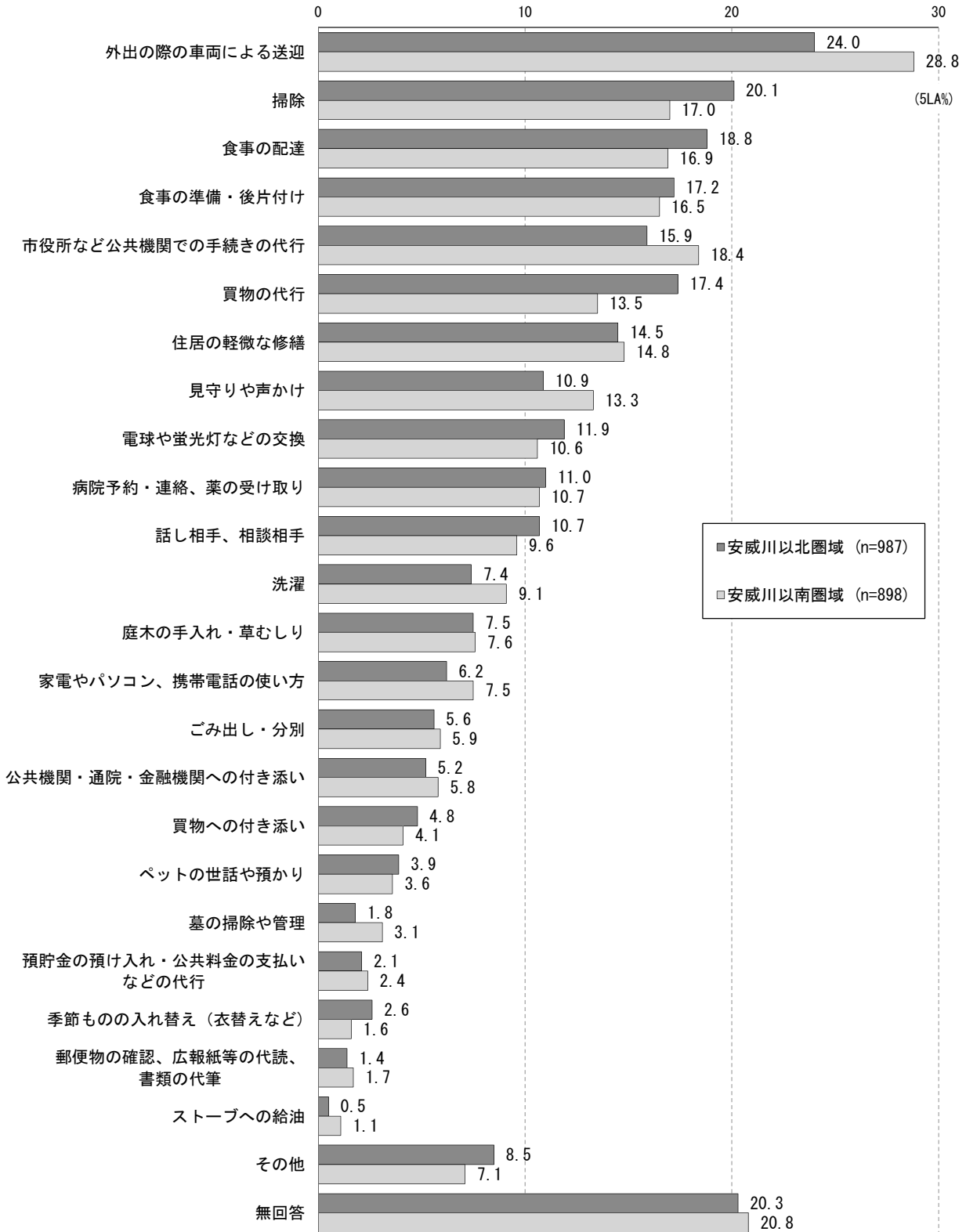
◆地域の会・グループ等への参加意向(性・年齢別)



【たすけあいについて】

介護保険以外で利用したいサービスや支援については、2圏域ともに、「外出の際の車両による送迎」が最も多く、安威川以南圏域で 28.8%とやや高くなっています。また、これに続くのが、安威川以北圏域では「掃除」、以南圏域では「市役所など公共機関での手続きの代行」となっています。

◆介護保険以外で利用したいサービスや支援（居住地域別）

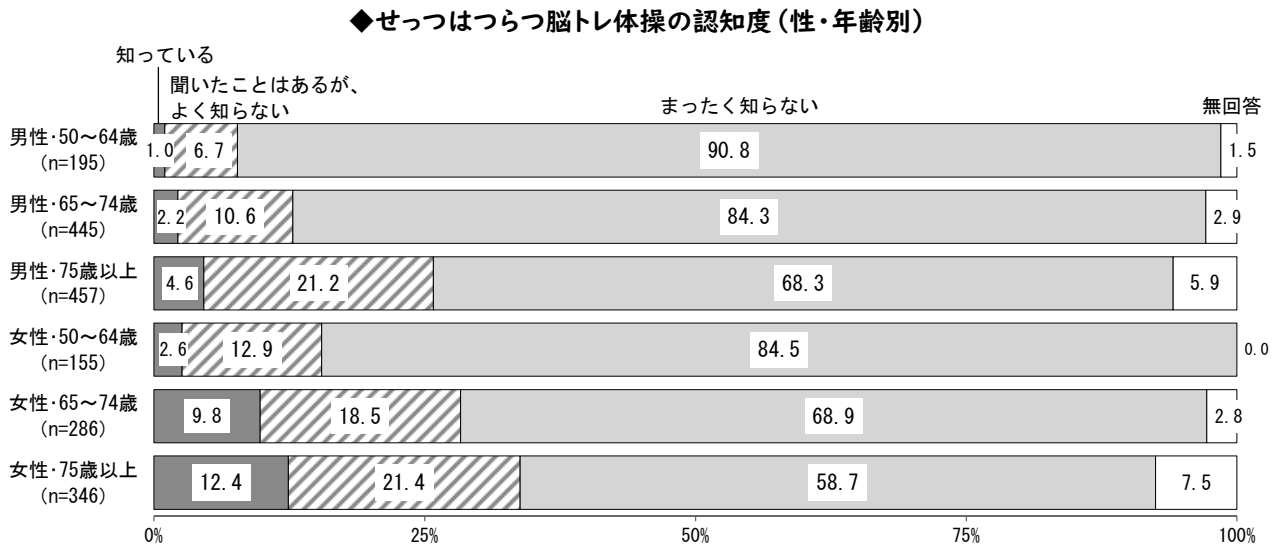
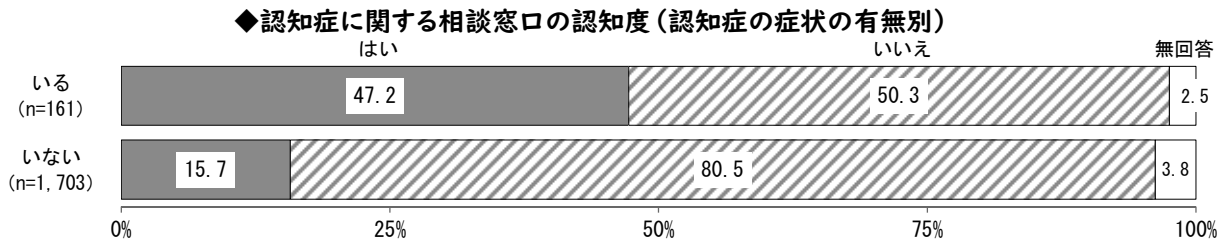
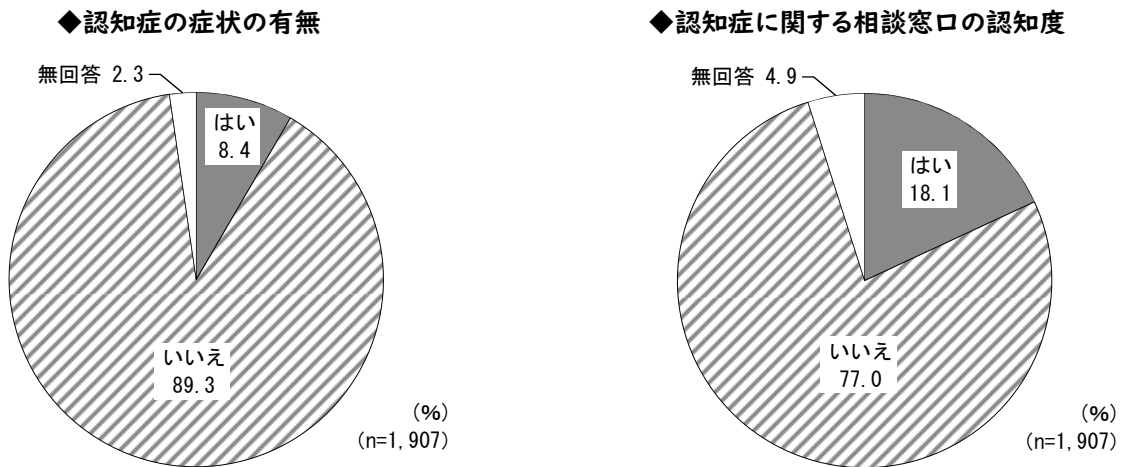


【認知症支援について】

認知症の症状の有無については、自身または家族に認知症の症状がある割合は1割未満(8.4%)となっています。

認知症に関する相談窓口を知っている割合は2割弱(18.1%)となっています。自身や家族の中に認知症の症状がある人のうち、相談窓口を知っているという割合は半数以下(47.2%)となっています。

せつはつらつ脳トレ体操*の認知度については、「知っている」が65歳以上の女性で1割前後みられるが、男性では5%未満となっています。

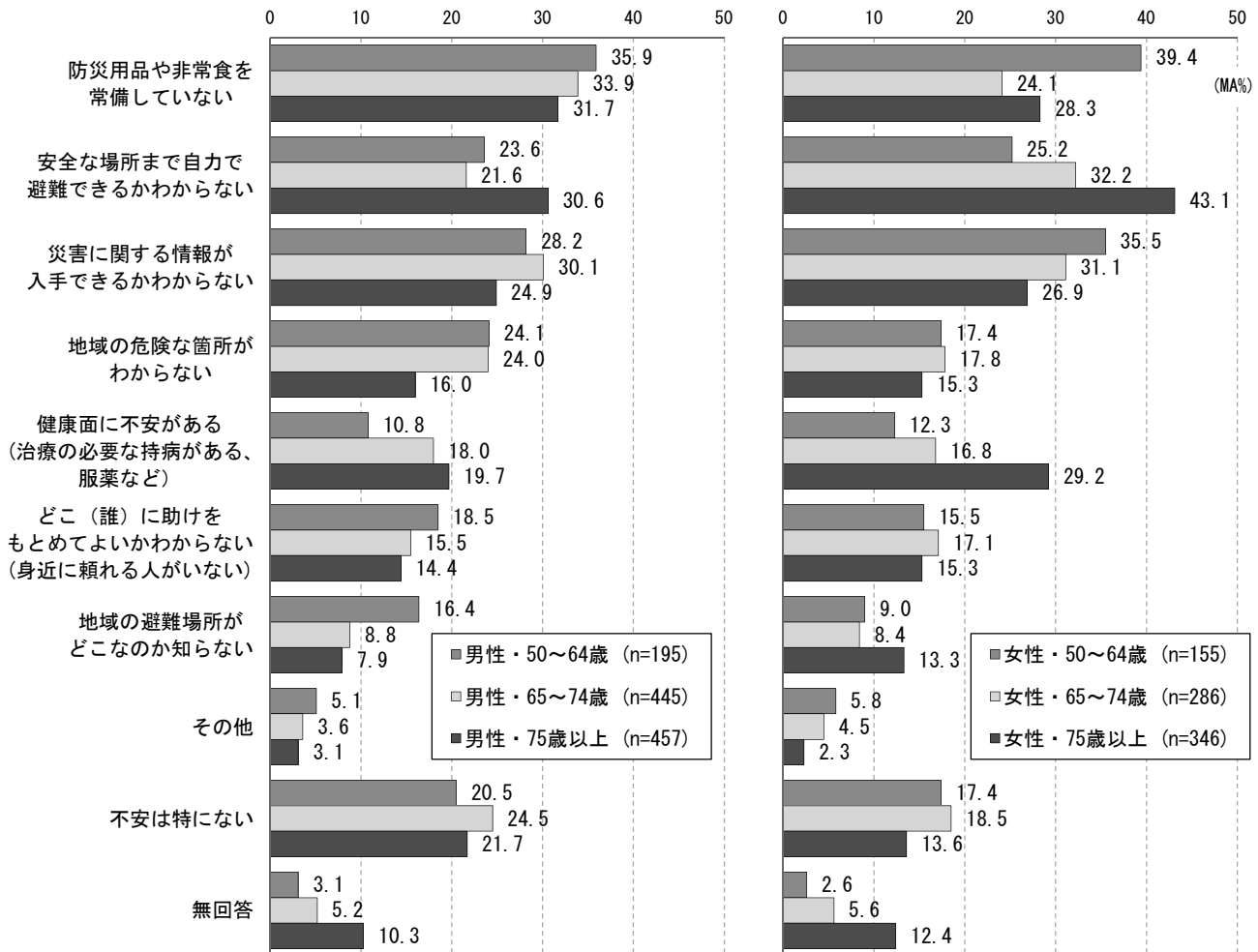


【災害時の対応について】

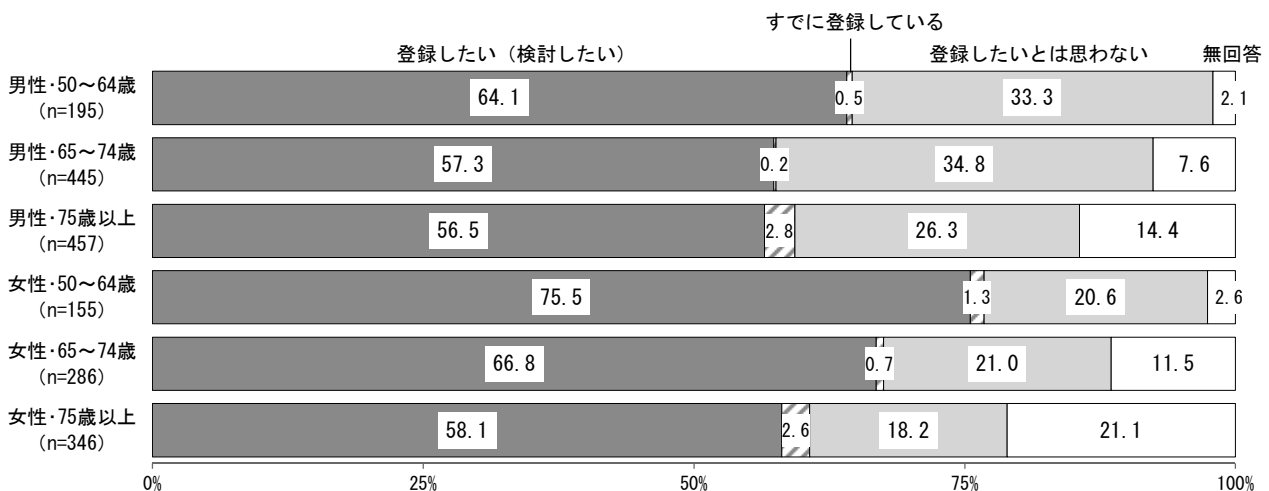
災害時の不安については、75歳以上の女性で「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が4割台と高くなっています。

摂津市災害時要援護者支援制度*の利用意向については、登録したいまたは登録済という割合が、50～64歳の女性で7割台を占めています。

◆災害時の不安(性・年齢別)



◆摂津市災害時要援護者支援制度の利用意向(性・年齢別)

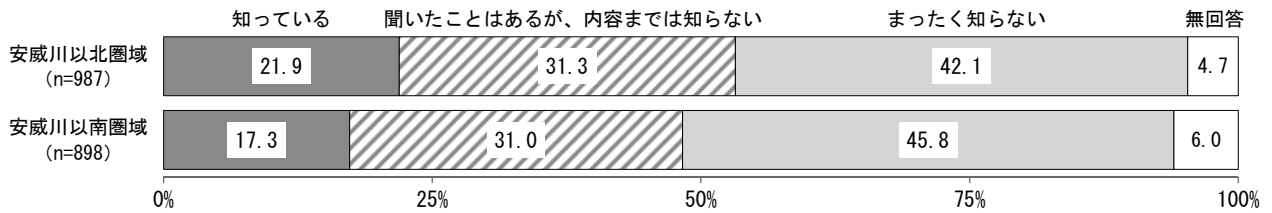


【その他】

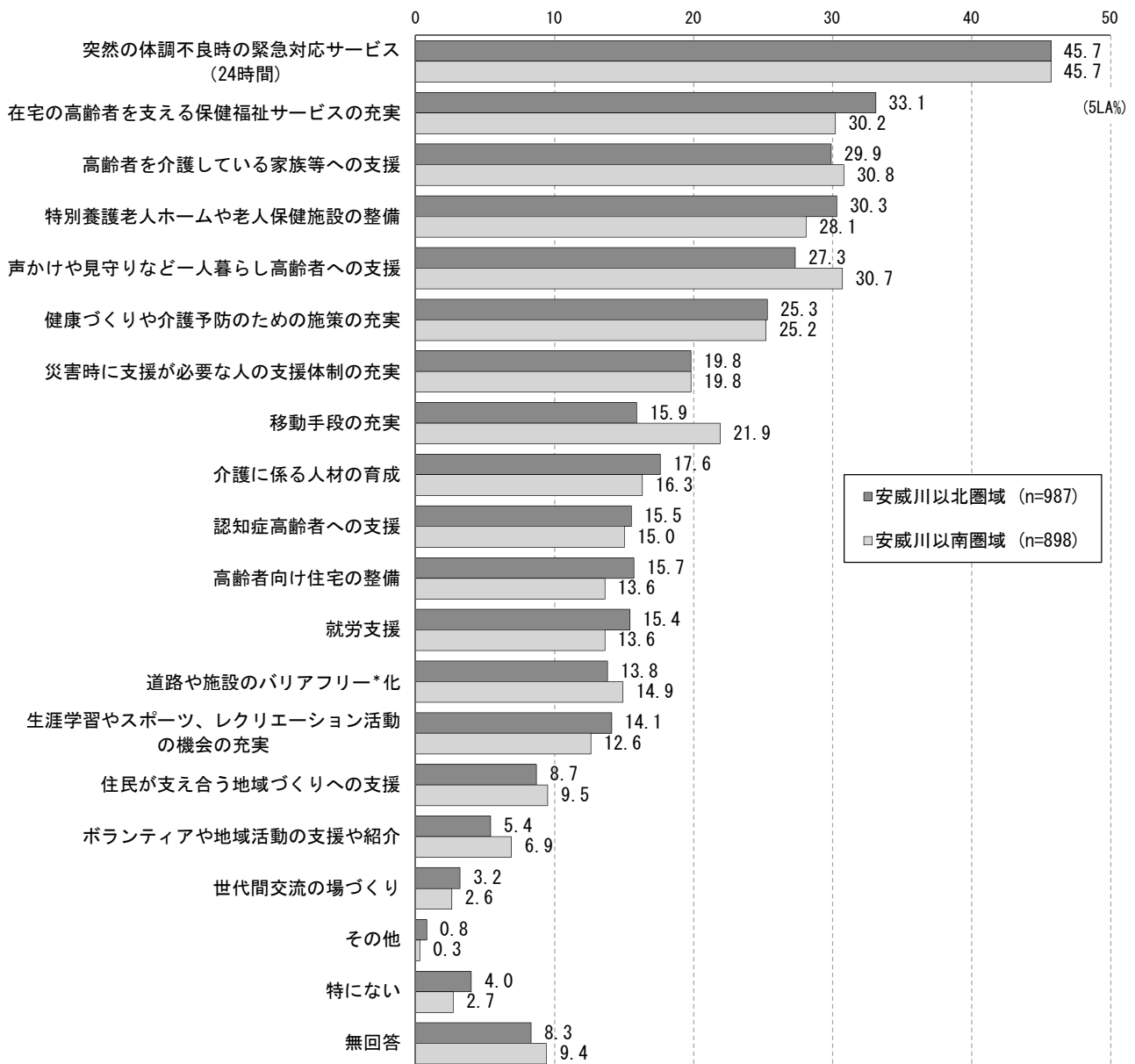
地域包括支援センターの認知度については、「知っている」が安威川以南圏域で 17.3%、以北圏域で 21.9%となっています。

高齢者施策として充実してほしいことについては、2圏域ともに、「突然の体調不良時の緊急対応サービス(24 時間)」が4割台と最も多くなっています。また、「移動手段の充実」が安威川以北圏域(15.9%)に比べて、以南圏域(21.9%)で高くなっています。

◆地域包括支援センターの認知度(居住地域別)



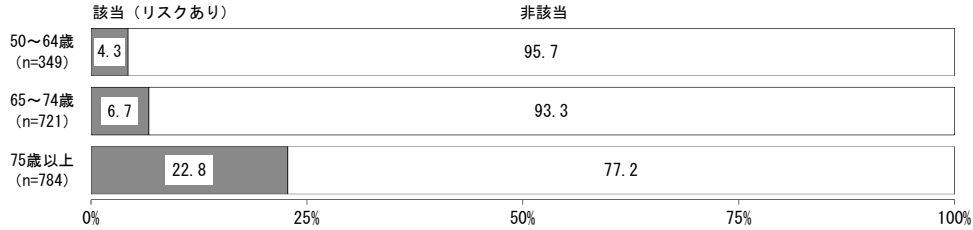
◆高齢者施策として充実してほしいこと(居住地域別)



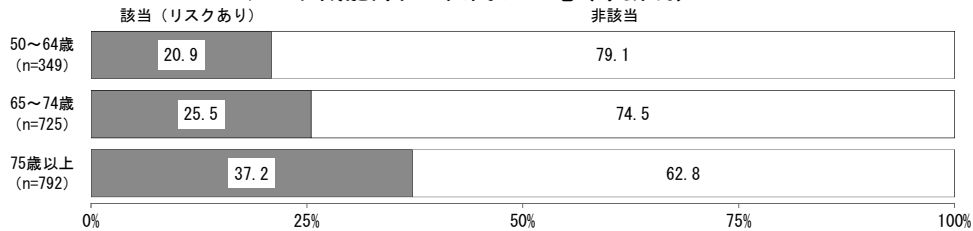
【生活機能評価等に関する分析】

各リスク評価については、すべての年齢層においては「うつ傾向」のリスク該当が4割台と多くなっており、75歳以上に関しては、特に「認知機能の低下」が5割を超えて多くなっています。

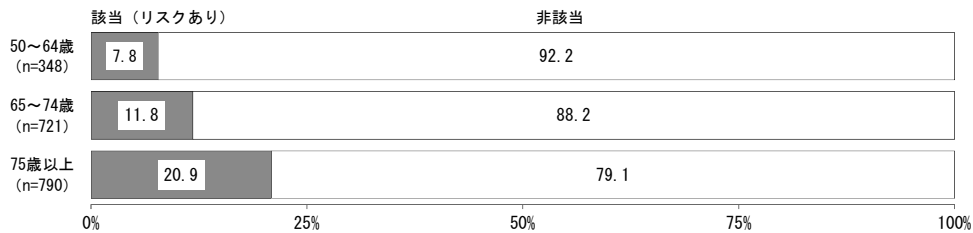
◆生活機能評価『運動器の機能低下』(年齢別)



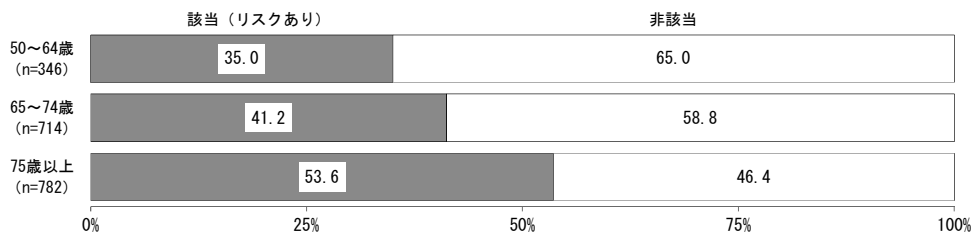
◆生活機能評価『転倒リスク』(年齢別)



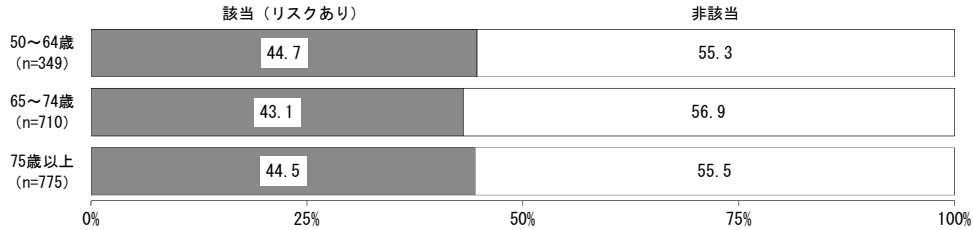
◆生活機能評価『閉じこもり傾向』(年齢別)



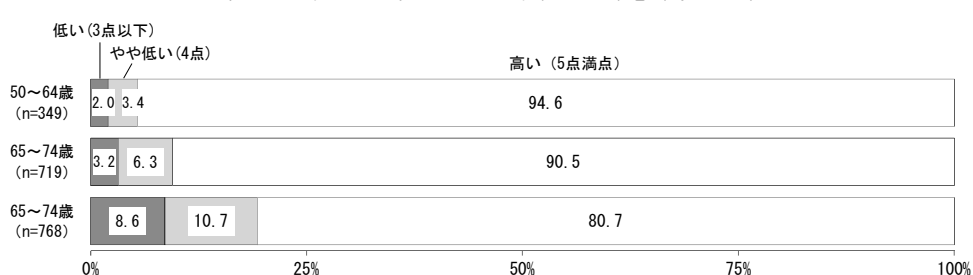
◆生活機能評価『認知機能の低下』(年齢別)



◆生活機能評価『うつ傾向』(年齢別)



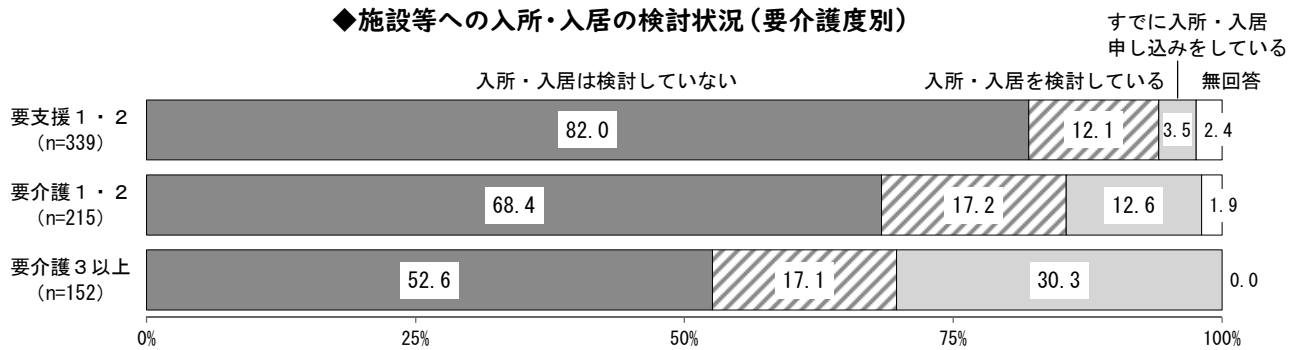
◆日常生活評価『手段的自立度 (IADL)』(年齢別)



②在宅介護実態調査(本人調査)

【施設等への入所・入居の検討状況】

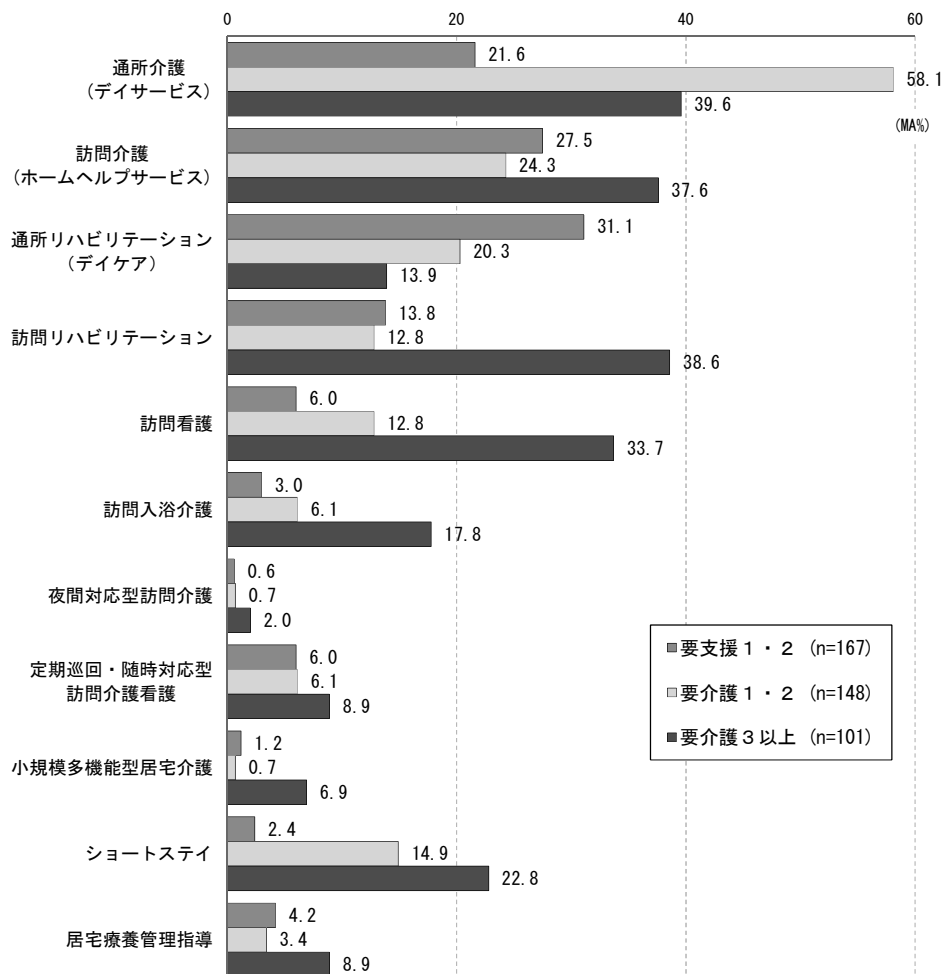
介護度が上がるにつれて施設等への入所・入居を検討する人の割合が高くなっています。



【介護保険サービスの利用状況】

サービス利用者のうち、『通所介護(デイサービス)』が要介護1・2で6割弱、要介護3以上で約4割と、ともに最も多くなっています。一方、要支援1・2では『通所リハビリテーション*(デイケア)』が3割台と最も多くなっています。

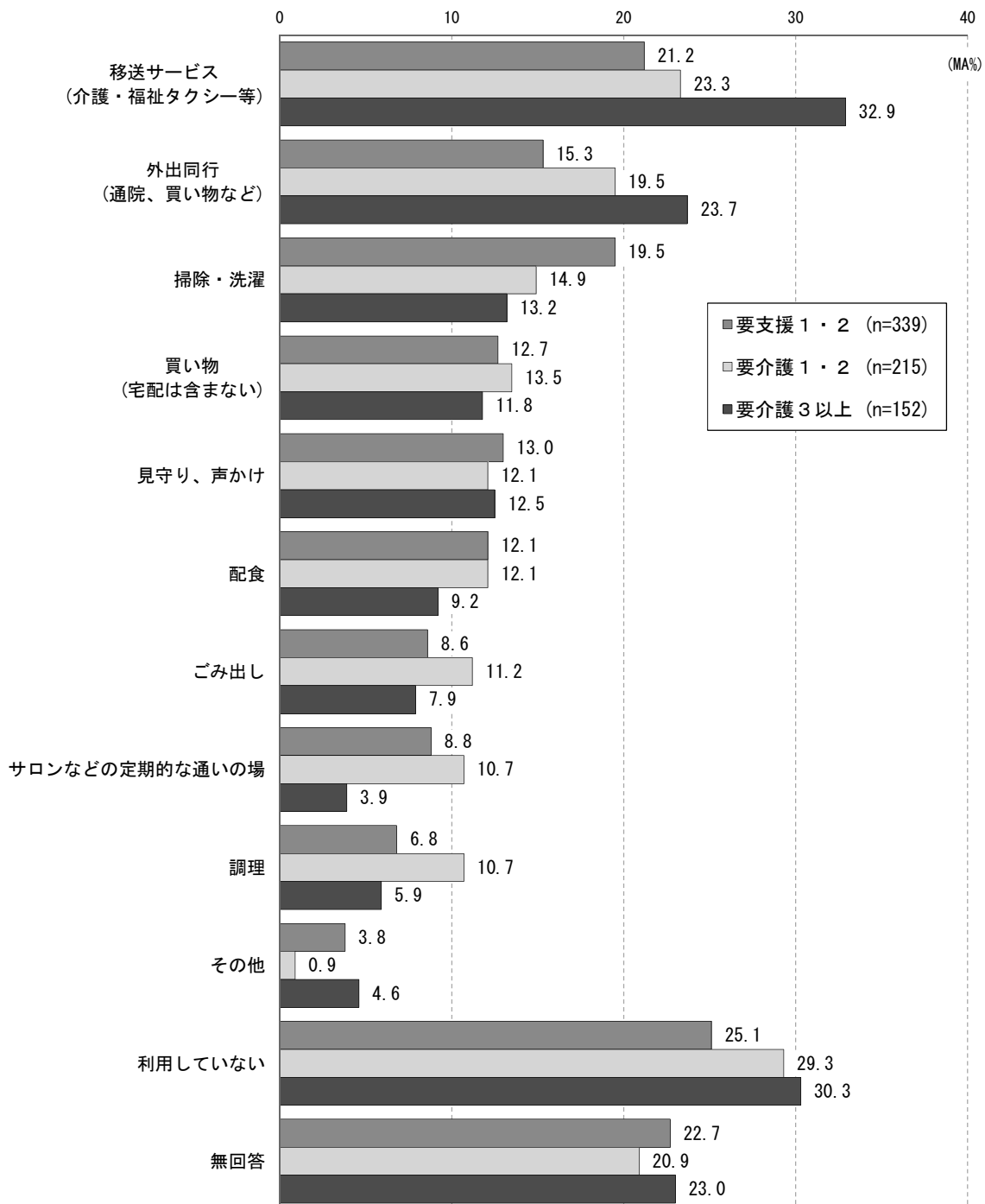
◆サービス利用者の利用頻度(要介護度別) ※1回以上利用した割合



【在宅生活の継続に必要な支援・サービス】

在宅生活の継続に必要な支援・サービスについては、要介護3以上において、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が3割台、「外出同行（通院、買い物など）」が2割台と高くなっています。

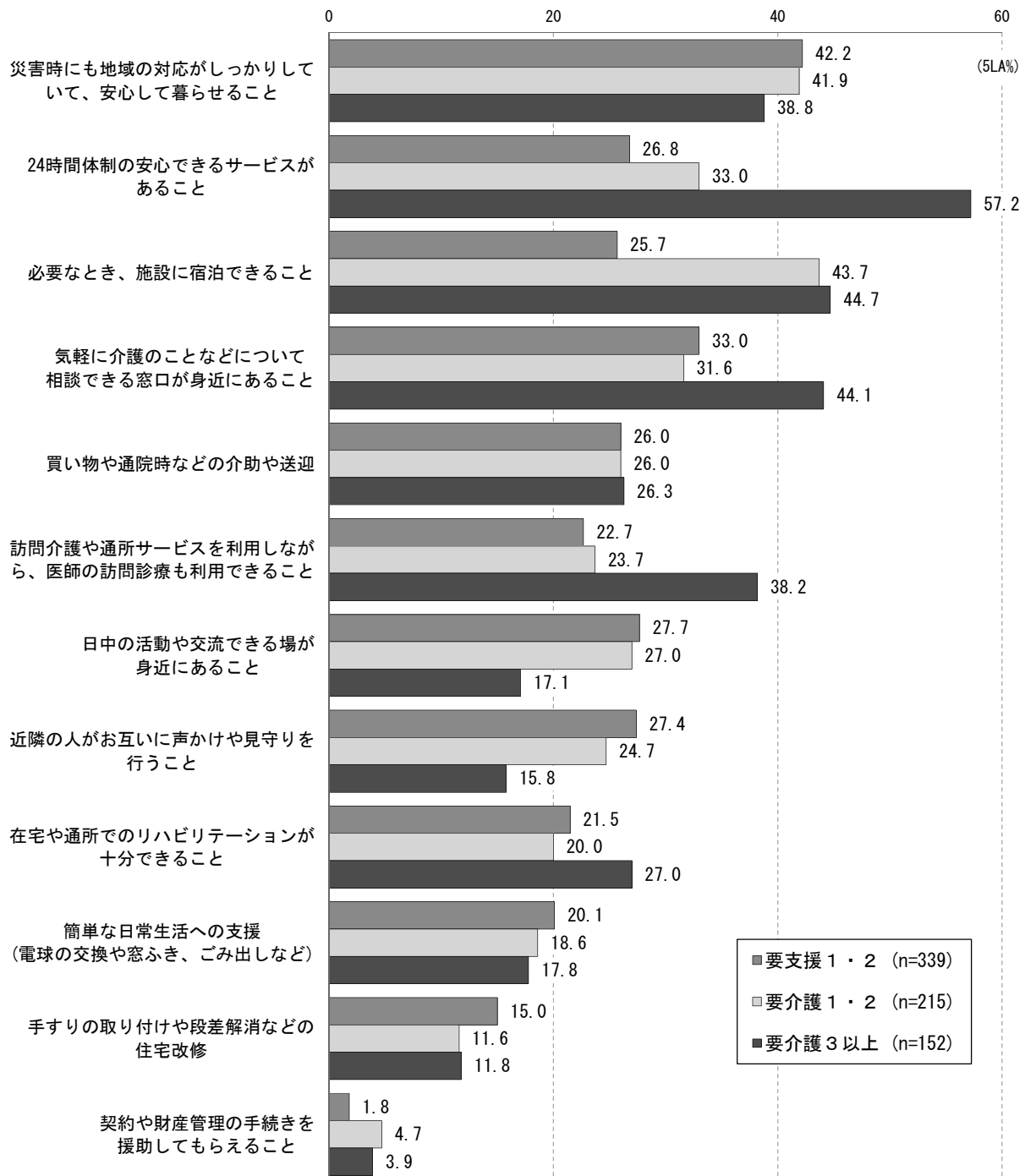
◆在宅生活の継続に必要な支援・サービス（要介護度別）



【地域での生活に必要な高齢者に対する支援】

地域での生活に必要な高齢者に対する支援については、要支援1・2では「災害時にも地域の対応がしっかりしていて、安心して暮らせること」が42.2%、要介護1・2では「必要なとき、施設に宿泊できること」が43.7%、要介護3以上では「24時間体制の安心できるサービスがあること」が57.2%と、それぞれ最も多くなっています。

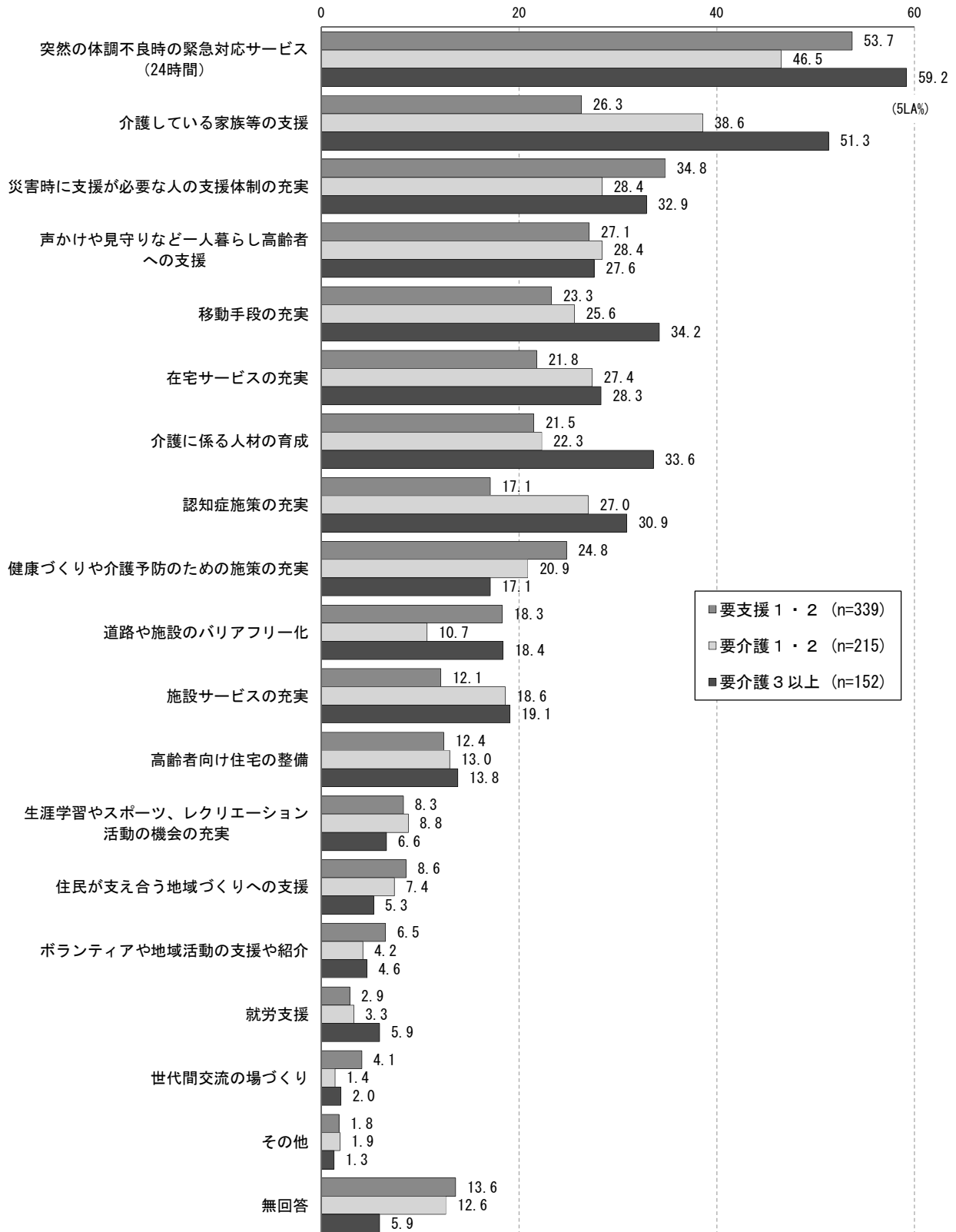
◆地域での生活に必要な高齢者に対する支援（要介護度別）



【地域での生活に必要な高齢者に対する支援】

要支援・要介護別にみると、いずれにおいても「突然の体調不良時の緊急対応サービス(24時間)」が4～5割台と最も多くなっています。また、要介護3以上で「介護している家族等の支援」が5割台と高くなっています。

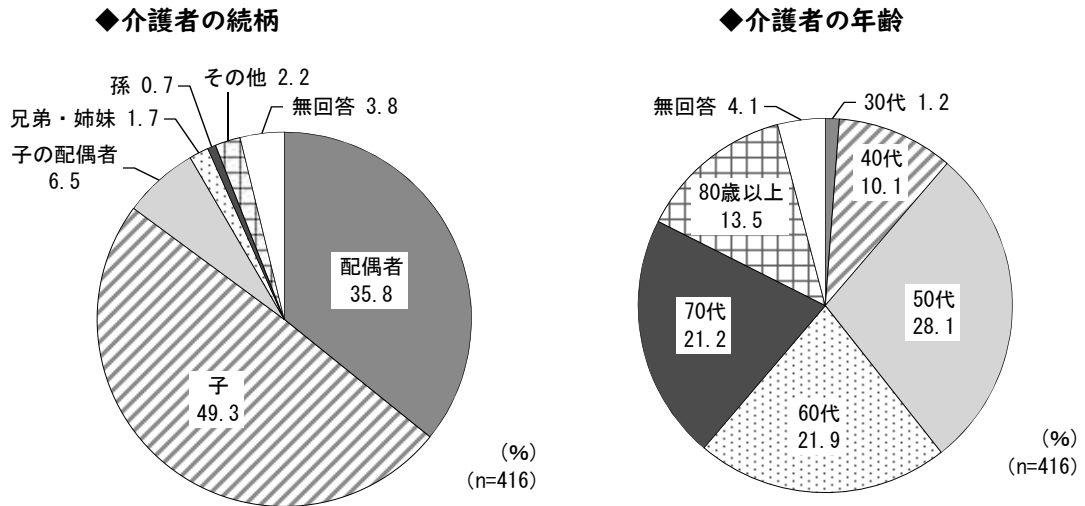
◆高齢者福祉について施策の拡充が重要と考えること(要介護度別)



③在宅介護実態調査(介護者調査)

【主な介護者の属性】

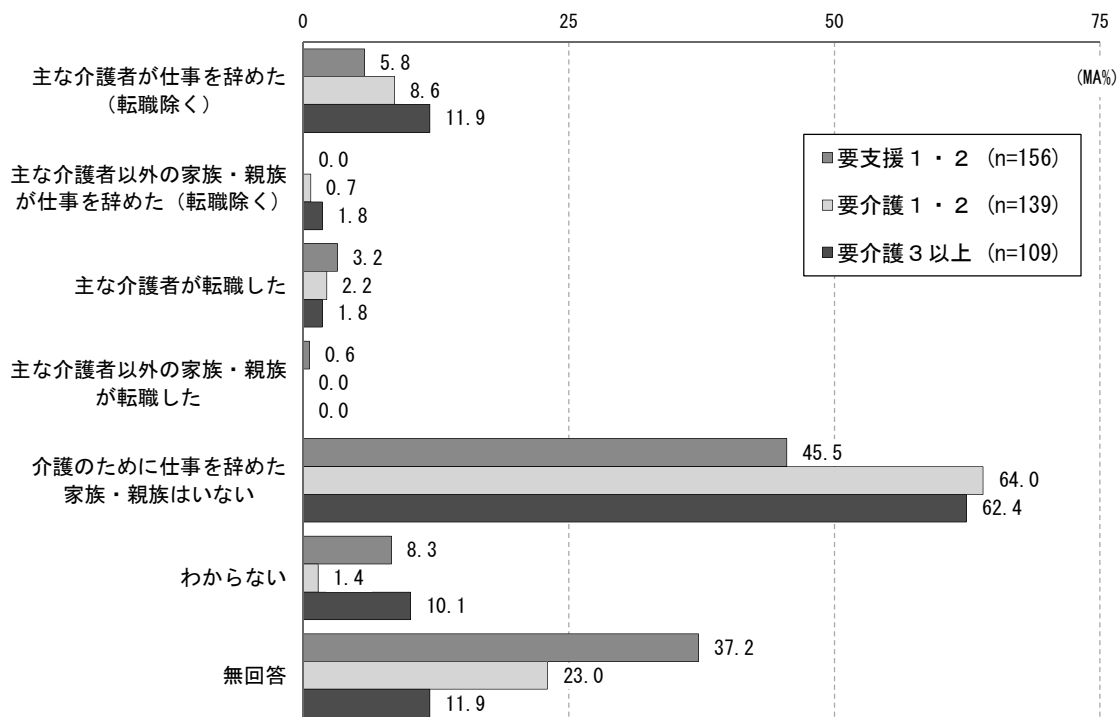
介護者については、「子」が最も多く、次いで「配偶者」の順となっています。年齢別では、50代が最も多く、次いで60代、70代となっています。



【介護離職の状況】

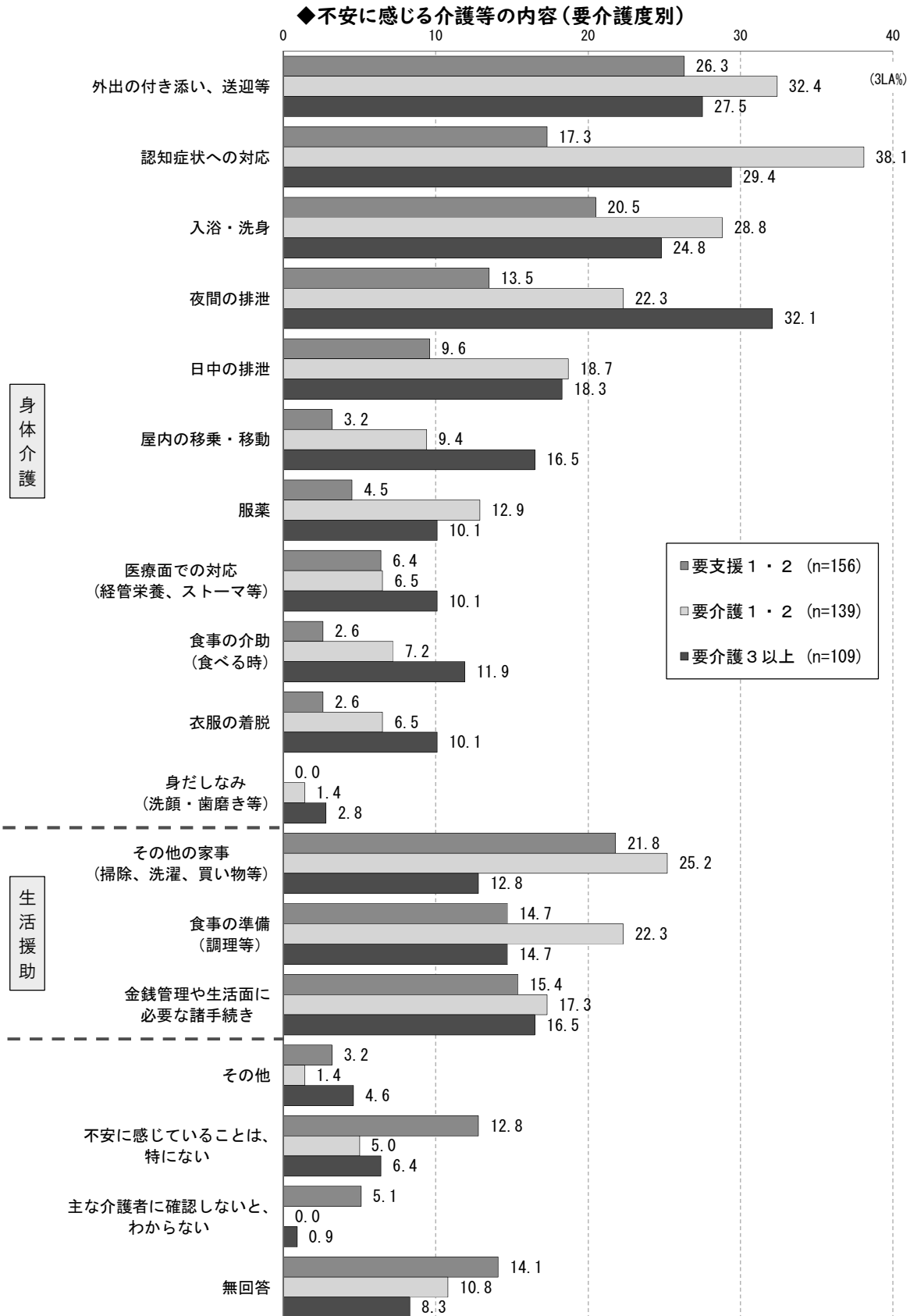
介護を理由に仕事を辞めたり転職したりした人がいるという割合は、要支援1・2で9.6%、要介護1・2で11.5%、要介護3以上で15.6%となっています。また、要介護3以上では「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が1割台みられます。

◆介護離職の状況(要介護度別)



【不安を感じる介護等の内容】

要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」が26.3%、要介護1・2では「認知症状への対応」が38.1%、要介護3以上では「夜間の排泄」が32.1%と、それぞれ最も多くなっています。

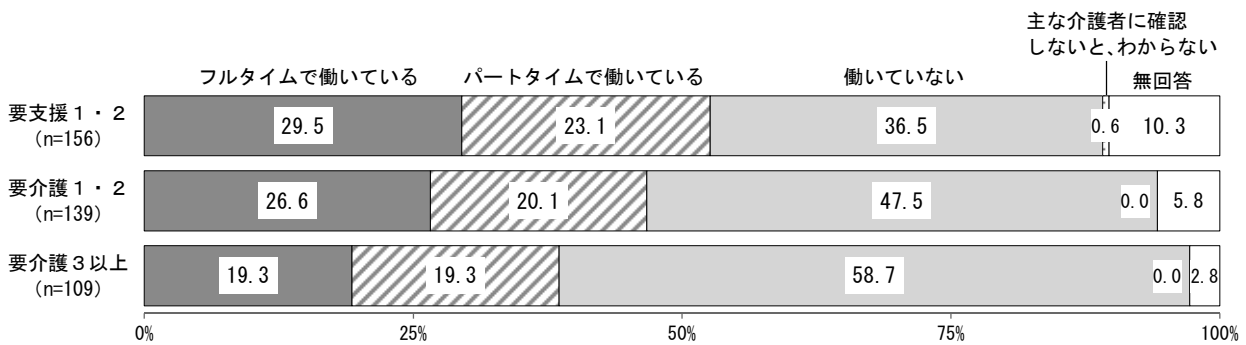


【介護者の就労状況】

介護者が就労している割合（フルタイムまたはパートタイム）は、要支援1・2で 52.6%、次いで要介護1・2で 46.7%、要介護3以上で 38.6%となっています。

また、就労している介護者のうち、働きながら介護を続けていくことは難しいという割合が、要支援1・2で 9.8%、要介護1・2で 13.8%に対し、要介護3以上では3割台（30.9%）と高くなっています。

◆介護者の就労形態（要介護度別）



◆仕事と介護の両立継続の可否（要介護度別）

